

神奈川県小児保健協会だより 第21号2022年3月

巻頭言

神奈川県小児保健協会
会長 後藤 彰子



2020、21年と2年も続いた pandemic の年月でした。さらにまだ先が見えない不安を抱えていますが、この2年の経験や治療薬の開発など鎮静化は遠くないと期待しています。

この間子どもたちの成長は日々待ったなしに進みました。フランスの哲学者‘ジャン・ピアジェの法則’によると、5歳のこどもの2年は50歳の大人の20年に相当すると言われます。この2年間に起こった大きな価値観の変化には大人も戸惑うことばかりです。最近増えてきている自己肯定感 (self esteem) が低い子どもたちにとってこの価値観の変化は対処しづらい重要課題です。

今年度の支援者研修会は初めてウェブ形式で行い、多くの参加者がありました。地域研修会は横浜市のご尽力で、対面で行いワークも入り、久しぶりにみなさんに会えて新鮮でした。今後

は、研修会のあり方なども今回の経験に基づいて大きく変わっていくことになるでしょう。

ここ数年、子どもをめぐる法律、条例も大きく整備されました。成育基本法の成立、さらに昨年9月には医療的ケア児支援法の施行、そして来年度はこども家庭庁の設立など問題を抱えつつ整えられてきましたが、どう機能するかは周知徹底とともに、それぞれ現場の裁量に大きく関わってきます。内容的には親の視点に重きが置かれ、こどもの最善の利益が図られるのか、こどもへの視点が少ないとも感じます。課題山積です。こどもは待ってくれません。こどもを扱うものはみなせっかちにならないといけないでしょう。

最後に、16年間会長を務めさせていただきましたが今年度で引退することにいたしました。松山教授から引き継ぎ、理事の先生方や事務局のみなさんなど良い仲間にも恵まれ、少しずつではありますが本会とともに私も成長できたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

こどもに関わる、医療、教育、保育、行政の専門家が一堂に会する本協会はこどもたちのワンストップとして機能していく唯一の機関です。今後とも神奈川県小児保健協会へのお力添えをよろしくお願い申し上げます。

2021年度 小児保健支援者研修会 (小児保健研修と合同開催)

期 間：2021年10月14日(木)～12月14日(火)
方 法：期間限定オンライン配信
講 師：神奈川県立こども医療センター医師



今年度は新型コロナウイルス感染症流行に伴い、オンライン開催としました。また、対象と目的が同じため、県健康増進課とこども医療センターが毎年共催で開催している「小児保健研修」と合同開催しました。研修会へは、多数のお申し込みとご視聴をいただきました。最新の医学的知識を基にした5人の医師の講義を、2カ月間の視聴期間を設け配信し、研修方法、講義内容ともに大変好評でした。

【講義概要】

【小児における新型コロナウイルス感染症と予防接種】 感染免疫科 鹿間芳明医師 視聴回数 736回

小児における特徴、陽性者の傾向、感染症対策ガイドラインの紹介、学校での対応、ワクチン接種について述べています。まとめとして、今後小児でも増加すること、周囲の大人がこどもを守ること、特にマスク無しの会話に気をつけること、コロナ以外のワクチン接種も重要と伝えています。

【コロナ禍での小児を取り巻く環境】 総合診療科 田上幸治医師 視聴回数 602回

コロナ禍による児童虐待への影響、実際の児童虐待相談件数とあわせた考察を述べています。また、実際の事例紹介をして、見守りや医療者の認識等の課題抽出をしています。SOSを出しにくい孤立した親への支援について問題提起し、摂食障害および自殺が増加していることに警鐘を鳴らしています。

【低出生体重児 (正期産) の成長発達と支援のポイント】 新生児科 山口直人医師 視聴回数 685回

正期産 SGA (Small for Gestational age) 児になる原因や起こりやすい合併症、出生後に母子が抱える課題や保護者の悩み、成長発達についてエビデンスや医師の経験談を交えながら述べています。また事前質問に対する回答や支援者の適切なアプローチについても述べています。

【食べる事を嫌がる乳幼児と保護者への支援 神話から科学的な対応へ】 新生児科 大山牧子医師 視聴回数 922回

摂食に関わる問題に対して、様子を見て良いケースと介入が必要なケースの違いや、医療機関への受診の目安となるスクリーニング表を紹介しています。また、支援者の保護者へのアプローチのポイントなど実践的な話を偏食パンフレット (神奈川県小児保健協会 HP 参照) を用いて述べています。

【医療的ケア児は災害に備えてどうすればいいのか?!】 新生児科 星野陸夫医師 視聴回数 505回

基本的な災害時の対策をふまえた上で、医療的ケア児の避難場所や、自助、共助 (地域の繋がり) について事前準備の大切さについて述べ、地域での防災訓練の実施を提言されています。また災害時の電源確保について、電源を必要としない代用方法や、電力供給装置の具体例について述べています。

2021 年度地域小児保健支援者研修会（担当横浜市）

「子どもたちに伝えていきたい人と人との関わり方 ～ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの視点から～」

日 時：2021 年 12 月 8 日（水） 18 時～ 20 時
会 場：横浜市庁舎 18 階会議室
講 師：法政大学人文科学研究科心理学専攻教授 渡辺 弥生氏



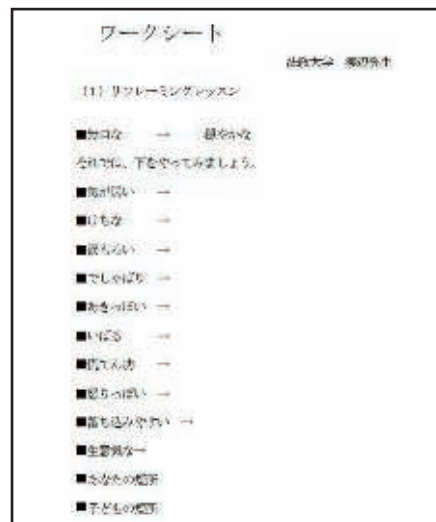
子どもの健全な精神発達の育成に必要な愛着形成や、子どもとの関わり方、子どものソーシャルスキルや感情リテラシー（気持ちの理解，表現，気持ちのマネジメントなど）をどのように育み、支援を行っていくかについて、支援者の立場として学ぶことを目的に、「子どもたちに伝えていきたい人と人との関わり方～ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの視点から～」をテーマに法政大学人文科学研究科心理学専攻教授の渡辺弥生先生をお招きし開催しました。保健師を中心に 58 名の参加がありました。

【講演の概要】

ご講演では、日々の子どもの関わりや子ども同士の関わりの中で感情を育むソーシャル・エモーショナル・ラーニングの大切さ、心を豊かにするための前向きな会話により良い人間関係を構築する「ポジティブ・キャピタリゼーション」という考え方、感情リテラシーの育み方、ソーシャルスキルトレーニング、さらに子どもの心に配慮した環境を大人が整えることの大切さについて事例を交えながらお話いただきました。

ネガティブな言葉をポジティブな表現に言い回しを変える「リフレーミングレッスン」等のワークを行い、ソーシャルスキルトレーニングの実際を体験しました。また、大人は子どもの悪い部分に対して、性格のせいにはせず、分かるように教えてあげることや機会を与えて褒めることにより自尊心を高めることが大事と教えていただきました。

最後に、Very good ではなく、good enough でよいというメッセージをいただきました。



自尊心→キラキラ
あなたの悩みは変じやないよ
あなた丸ごとすてき

very good ⇒ good enough
有用感（私なんかの役に立ってるよね）
成長感（私成長してるよね）
効力感（私やればできるよね）
不安⇒安心

法政大学 渡辺弥生 2022/2/19

【参加者の感想】

参加者アンケートでは、「2時間集中して、最後までとても引きつけられるお話ばかりだった」、「発達障害のお子さんとしてその子を見るのではなく、その子の良い特性と捉えられるように、保護者や支援者に導いていけるようになりたい」、「まずは大人が心豊かに過ごすことが大切と思った」、「言葉にする事の大切さがわかった」、「大変いい」ではなく、「そこそこいける」で大丈夫と保護者に伝えていきたい」などの感想がありました。支援者としての研修参加者も、先生のご講演により元気をいただいた一日となりました。

最新のトピックス

「医療的ケア児支援法成立に伴う 小児保健分野へのメッセージ」

厚生労働省 障害保健福祉部障害福祉課
障害児・発達障害者支援室長
地域生活支援推進室長
河村 のり子

2021年6月11日に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」(令和3年法律第81号。以下「医療的ケア児支援法」)が成立し、同年9月18日に施行されました。

医療的ケア児支援法は、医療的ケア児とその家族の現実の苦勞を知った荒井聰・前議員(2021年に法案成立後に引退)が、医療的ケア児の母でもある野田聖子議員とともに、超党派の「永田町子ども未来会議」を立ち上げ、各党の有志議員に加え、医療的ケア児の保護者、小児科医、支援者等の関係者とともに、2015年から6年以上にわたる議論を行い、構想されたものです。

「子育てを社会全体で応援しよう」という考え方は、この間、だいぶ日本社会にも浸透してきたと思います。一方、障害のあるお子さん、とりわけ医療的ケア児の子育てでは、未だ家族に重い負担が集中してきた面が否めません。

医療的ケア児支援法は、このような現実を踏まえ、基本理念において、医療的ケア児の日常生活・社会生活を「社会全体で支援する」と明確に打ち出した点に大きな意義があります。

また、保育所や学校等に、医療的ケアを行うことができる保育士の配置等の措置や、とりわけ学校については、保護者の付添いがなくても適切な医療的ケア等を受けられるようにするための措置を求めています。

さらに、医療的ケア児とその家族にとって期待されるのが「医療的ケア児支援センター」の設置です。都道府県域で設置される同センターは、どこに相談すれば良いかわからない状況にある医療的ケア児の様々な相談について、まずしっかりと受け止めた上で、医療、保健、福祉、教育、労働等の各関係機関と連携し、総合的に対応することが期待されています。

「負担感」や「心の重荷」には、実際の物理的なケアの大変さ以上に、「孤立感」が大きく影響します。必死で頑張っておられる御家族に、「みんなで支えるよ」という姿勢を、是非、小児保健分野の皆さまから発信をいただければと思います。

コラム



「こどものアレルギーについて 正しく知ってもらうために」

横浜市こども青少年局総務部医務担当部長
岩田眞美

横浜市では、こどものアレルギーについての正しい知識を発信するため、毎年講演会を実施してきました。2020年度は、前年同様3回の実施に向け、会場準備と講師への依頼をしていましたが、新型コロナウイルス感染症への対応から、準備した会場を使ったオンラインでのライブ配信と一定期間の動画配信に切り替えました。2021年度は当初からオンライン開催を予定し、事前にアンケートを実施したので、その結果も併せてご紹介します。

7～9月、市内在住で0～12歳の子を持つ養育者(アレルギー疾患の有無は問わない)を対象に市の電子申請システムを用いたウェブアンケートを実施。市内幼稚園、保育園、小児科医療機関、乳幼児健診対象者等にちらしを配布、162名から回答あり。9割強が乳幼児で0歳が36.4%。これまでにアレルギーを疑う症状があったのは61.7%、うち通院歴があるのは88.0%。アレルギーについて不安に思うことがあるのは86.4%(とても22.8%、少し63.6%)で、その約3割は相談しておらず、不安に思う内訳(複数回答)の上位4つは、今後治るか18.0%、どんな症状が出たら病院を受診したら良いか13.9%、親がアレルギー体質なので子どもならないか13.2%、今の治療をいつまで続けたらよいのか7.8%。疾患ごとの気になる知りたい情報についても聞き、講演の内容に反映。

12月に庁内の会議室で撮影し、専門医による総論、ぜん息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーについての講演、スキンケアの実演、アレルギーを考える母の会の情報提供に分けて編集し、字幕も入れたものを、1月～3月YouTubeに限定公開しています。アンケートに答えてくれた人への案内はもちろん、乳幼児健診対象者や小児科医療機関にちらしを配布、市のホームページにもアップし、申し込めば誰でも見られるようになっています。1月末で、600人以上の申込みがありました。

コロナ禍の対応として、乳幼児健診では感染予防対策を講じた集団健診と、不安な方には医療機関での個別健診(特例措置)をご案内するハイブリッド方式を行っています。その乳幼児健診でも相談の多いお子さんのアレルギーについては、今回の取組を活かし、今後もニーズに合わせたわかりやすい発信を工夫していきたいと思っています。

「16年間ありがとうございました!! ～後藤会長 退任によせて～」



後藤彰子会長が2022年3月末をもって、退任されることとなりました。

退任にあたり、神奈川県立こども医療センター新生児科および神奈川県小児保健協会でも共に働いた大山牧子医師からメッセージをいただきました。

後藤彰子先生は神奈川県立こども医療センター総長を辞されたあとの2006年から16年間神奈川県小児保健協会の会長を担って下さいました。まずは、長期間本当にありがとうございました。当時から3年毎くらいでテーマを決めて、研修会を開催していましたね。ちょうど、幼児期の発達障害児への対応が模索されだした頃で、講師と一緒に地域の保育所を訪問したことなどを思い出します。先生は、ネットワークの広さと、フットワークの軽さで、様々な講師を招聘して下さり、研修会では、挨拶のみならず最後まで内容も確認して、次年度への繋ぎをしていただき、とても頼りにさせて下さいました。これからも、どうぞ私たちを見守っていただけますようお願いいたします。

神奈川県立こども医療センター地域保健推進部長
大山牧子

後藤会長はいつも広い視野で小児保健をみつめていました。イギリスのこどもホスピスやマダガスカルを訪ねたお話も聞かせて下さいました。こども達の育ちに優しいまなざしを送っていたことも思い出されます。また、猫が好きで、事務局のスタッフにも優しい彰子先生でした。本当にありがとうございました。会長職は退かれますが、どうかこれからもお元気で過ごしてください。

神奈川県小児保健協会事務局一同

神奈川県小児保健協会のホームページ

研修情報、療育機関情報、理事からのメッセージ、新型コロナウイルス関連情報などを掲載しています。予防接種情報や、日本小児保健協会もリンクしていますので、ぜひアクセスしてください。



2021年度事業報告

■総会・理事会

日時：2021年6月2日(水)18時～18時30分

方法：オンライン開催(参加理事・監事32名、事務局4名)

■小児保健支援者研修会

神奈川県立こども医療センター小児保健研修と合同開催
(共催：神奈川県健康増進課)

期間：2021年10月14日～12月14日

期間限定オンライン配信

「テーマ」

1.「小児における新型コロナウイルス感染症と予防接種」鹿間芳明医師、2.「コロナ禍での小児を取り巻く環境」田上幸治医師、3.「低出生体重児(正期産)の成長発達と支援のポイント」山口直人医師、4.「食べる事を嫌がる乳幼児と保護者への支援 神話から科学的な対応へ」大山牧子医師、5.「医療的ケア児は災害に備えてどうすればいいのか?!」星野陸夫医師

※講師は全員神奈川県立こども医療センター医師

申込者数：920人

■地域小児保健支援者研修会

日時：2021年12月8日(水)18時～20時

会場：横浜市庁舎 18階会議室

テーマ：「子どもたちに伝えていきたい 人と人との関わり方～ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの視点から～」

講師：法政大学人文科学研究科心理学専攻教授 渡辺弥生氏

参加者：58名 担当：横浜市

■神奈川県小児保健協会ホームページ

・理事からのメッセージ、協会のおすすめ文庫 8月～月1回掲載

・「facebook」「新型コロナウイルス関連情報」随時更新

・動画「子どもが食べないのは親のせいではありません」掲載

■あり方検討会

日時：2021年12月10日(水)18時～19時

方法：オンライン開催(参加理事11名、事務局4名)

■神奈川県小児保健協会だより(第21号) 2022年3月発行

編集後記

最近は研修をオンラインで行うのが主流となりました。小児保健支援者研修会も初めてのオンライン開催でしたが、大きなトラブルなく開催できたことに安堵しました。皆様から研修に関する多くのご意見をいただき、様々な研修が中止や縮小されている事がわかりました。コロナ禍だからこそ、最新の正しい知識・情報をお届けしたいと強く感じました。

< 事務局 >

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構

神奈川県立こども医療センター 母子保健推進室内

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4

電話 045-711-2351

F A X 045-710-1933